国際交流員のコラム　－　Coordinator for International Relations (CIR) Column

●南大隅・本土最南端の世界 後編●

－　鹿児島県国際交流員　ウォン・イミン（シンガポール出身）

（本記事は，第 169 号の続きです。）

佐多岬灯台

亜熱帯に覆われて日本本土最南端の岬にある佐多岬展望台で，眼下に一基の灯台が輝いています。これは，日本の「灯台の父」と呼ばれる外国人リチャード・ヘンリー・ブラントンが明治４年に築いた佐多岬灯台です。これは明治時代，日本の沿岸をより安全にするための計画の一部でした。

佐多岬灯台

ブラントン氏が築いた 26 基の灯台のうち，佐多岬灯台は唯一の沖合の灯台です。その灯台は佐多岬からさらに５０メートル先に浮かぶ大輪島にあります。初代の灯台は昭和 20 年に空襲により破壊され，現在の灯台は昭和 25 年に再建された２代目です。「日本の灯台 50 選」にも選定されています。

本土最南端の佐多岬

本土最南端の岬にある一基の灯台…　その孤独な白い姿を見ながら，灯台守さんはどんな気持ちでここにいたのでしょうか！

また，不思議な偶然ですが，数年前に日本本土最北端の北海道の宗谷岬へ行く機会がありました。今回，最南端の佐多岬に経った私には，その二か所の同じ点と異なる点がはっきり感じられました。

亜熱帯の暑さに包まれて緑豊かな熱帯林が溢れる最南端，と，亜寒帯の冷たい風が吹き，広大な土地やなだらかな丘陵が広がる最北端。異なる点はありますが，両方とも日本の中心からとても離れた場所で，独特な荒涼感が漂っていると思います。

鹿児島の南大隅で本土最南端にある記念碑

（以前の旅行）北海道の稚内で本土最北端にある記念碑

展望台の反対側は，晴れていれば指宿の開聞岳の姿が見えるようです。

<u>佐多岬灯台守の官舎跡地</u>

素敵な絶景を充分に楽しんだあとはまた熱帯林に入り，次の場所に向かいました。豊かな緑の中にある石段を通って，佐多岬灯台守の官舎跡地に着きました。かつて，灯台を管理していた役人が住んだ跡です。

植物が生い茂り，独特な南国の雰囲気を持っている歴史的な建物です。現在では外壁の一部しか残っていませんが，文化的・歴史的に重要な存在です。

佐多岬灯台守の官舎跡地への石段

きれいな海と緑豊かな環境に包まれた場所ですが，人里から遠く離れたこの場所は灯台と同じような孤独感を感じました。灯台守が家族と一緒にここで生活していた時，どんな思いだったのか想像が膨らみます！

そしてそろそろ時間になりました。入口に戻り，専務と担当の方にお礼を言いお別れしました。

佐多岬灯台守の官舎跡地の遺跡

佐多岬で撮影した最後の一枚

全国でも稀に見る並列鳥居がある

諏訪神社

雄川の滝

　最後に行く場所は自然豊かな環境にある人気スポット，雄川上流にある雄川の滝です。雄川渓谷の遊歩道を歩くと，清流の音や鳥のさえずりなど，心身ともに癒される感じがします。

　雄川の滝に着くと，壮大な景色が目に入りました。その日の滝は，通常の穏やかな滝ではなく，大量の水が流れる轟音の滝でした。その上，水と光の完璧な組み合わせのおかげで，素敵な虹も見ることができました！

滝への遊歩道

雄川の滝

滝へ行く途中にある天然クーラースポット

終わりに

あっという間に，帰る時間となりました。今回の旅では，とても貴重な経験をさせていただきました。

終わりに，同行いただいた南大隅町や南大隅町観光協会の方々、国際交流協会の同僚たちに心よりお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました！

雲をかぶった開聞岳

美しい夕日